

## 「子どもの感性を磨くイベント」

香月 欣浩 \*

Art events that cultivate sensitivity of children

Yoshihiro Katsuki

本学の幼稚園でアートクラブという活動をおこなってきたが、それと同時に別の形で子どもの感性を磨く方法も模索してきた。色々な分野から創造のヒントを吸収し、この度、音楽と造形のコラボレーションによるイベント「キッズアート&ミュージック」を行った。それは生演奏を聴きながらペインティング活動を1日で行い、描いた作品を鑑賞する作品展を3日間開催するものだ。子どもたちがアートイベントを通して何を感じ、どう変わったのか。それと同時に保護者に変化はあったのか。これは子どもの造形活動環境にかかわるとても重要なことだと考える。

**Key words:** こどもの造形、自主性、自分で決める、楽しんで伸びる、発想力、創造力



自分の背よりも大きいキャンバスに挑む子ども

<はじめに>

表現に垣根はない。美術だけが表現ではないし、音楽、身体表現、言語表現だけが表現でもない。1つだけを使って表現するわけではなく、いろんなものが組み合わさって出てくるものを表現と呼ぶ。教育の世界には「美術・音楽・身体表現・言語

表現」と専門が分かれているが、子どもの世界にそんな区別はない。大人ので作った「分野の垣根」を私たちは取り払う努力をする必要があると考える。その活動の1つがこのイベントだ。

### 1. 音楽

美術のように作品が後に残るものと違い、音楽はCDや楽譜は別として後に残らない。残らない

\* 四條畷学園短期大学 保育学科

からこそ、より強く印象に残る一面を持っている。特に若者の間で抵抗なく受け入れられている表現の1つが音楽だ。子どもにとってもそれは当てはまる。音楽は生活に満ち溢れている。

## 2. 美術

描くことは多いが、逆に作品鑑賞をする機会が少ないのが日本の特徴で鑑賞よりも描いたり、作ったりする方が主流と言えよう。鑑賞を勧める話は別にすると、子どもたちは描いたり作ったりするのが好きだ。その行為を大人になっても続けていってほしいものだ。

## 3. きっかけ

先に述べたように子どもは描いたり、作ったりするのが好きだ。問題は大人である。造形表現に苦手意識を持った人が多いように感じる。そんな大人に育てた、かつての大人の責任なのでここで言っても仕方がないが、それを現代の子どもにまで影響させるのは阻止したい。まず楽しく生きている姿を見せることが私たち大人の義務だと考える。面白いことを考えて、実行する。誰もしないこと、大変なことを喜んで企画し実行する。そんな大人との出会いは、これから社会に出る子どもたちにとってとても大切なことだと考える。そんな話に賛同してくれる演奏家の方々と出会うことができた。フルート、オーボエ、ピアノの演奏をいろんなイベントで行っている活動的な方々だ。

## 4. 内容

- ①音楽の生演奏を聴きながら巨大なキャンバスに絵を描く
- ②額装された作品が展示された展覧会で自分の作品、みんなの作品を鑑賞する。
- ③製作をする自分の姿(写真・動画)を鑑賞する。

## 5. 目標

この活動の目標は3つある。1つ目は大人の作った美術と音楽の垣根を取り払い、子どもと大人と一緒に楽しむ時間と空間を作ること。2つ目は音楽の生演奏を聴きながら思いに任せて描くこと。3つ目は描く自分の姿、作品を客観的にとらえ自己肯定感を感じ、次につなげていくことだ。

## 6. 客観的視点

何をするにもがむしゃらだけでは頭打ちにあう時が来る。客観的に物事を見つめ、時に自分の姿、行動、言動をも見つめることが大切だ。そうすることで自分の良いところも悪いところも見えてくる。そしてそれは自分の存在を認めることにもつながると考える。

## 7. イベントの詳細と準備

### ◆詳細

ペインティング

日時：2013年11月17日(日)10時～12時

場所：四條畷学園小学校体育館

定員：20名

対象：3歳～6歳のこども

参加料：3000円

内容：生演奏を聴きながら絵を描く

演奏：トリフォリウム

申し込み方法：メール

### キッズアート作品展

日時：2013年12月13.14.15日(金・土・日)11時～17時

場所：大阪南港ATCビルITM棟10階アートギャラリー

展示内容：11月17日に描いた作品

記念イベント：ムッシュ香月のライブペインティング×トリフォリウムの演奏

入場無料

### ◆準備

□床の養生(前日の午後)

小学校の体育館をお借りするために白いビニールシートを敷いて床を養生する



#### □巨大なキャンバス

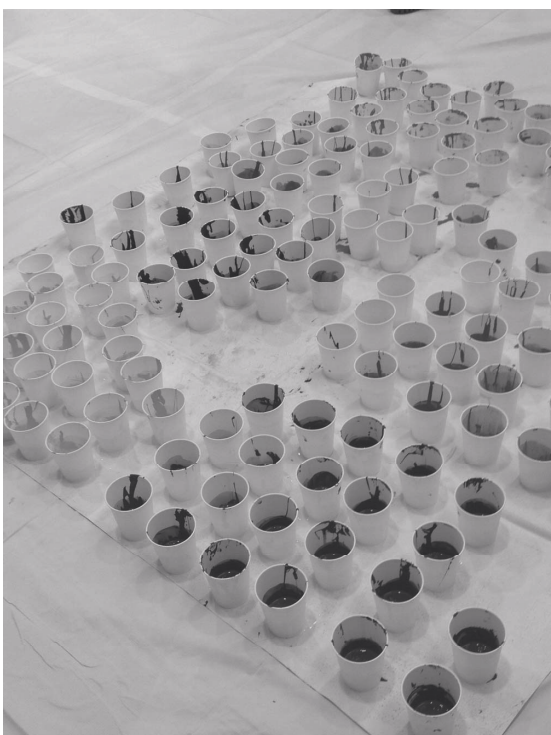
特厚段ボールボードをつなぎ、白画用紙全紙を2面に貼り床に固定する



#### □名札

誰の作品か後からでも把握できるように、キャンバスに名前シールを張る

□少量の絵の具と水、選択のりを混ぜ紙コップに分けて入れておく。



□(各人) 筆3本・水入りバケツ・スポンジ・ローラー・雑巾2枚・割りばし

#### 8. 流れ

- ・参加受付をして名前シールを胸と背中に貼る
- ・参加者記念撮影をする。(作品展用のラベル写

真)

- ・自分のキャンバスの場所を確認しに行く。
- ・全員集合して開会式
- ・本日の流れと連絡と注意、スタッフと演奏者の紹介

#### <連絡と注意>

##### ○大人へ

1. 子どもにまかせ見守る、集中させる
2. 撮影OKだが、よびかけは× こっそり撮影はOK
3. 額装して作品展に展示すること 12/13～12/15、ATC IMT棟10F
4. 片付け、使ったもの → 自分で洗う、拭く。親にさせちゃいけない

##### ○子どもたちへ

1. 走らない、暴れない
- ・演奏会を聴く(15分)
  - ・みんなであそびうた(ムッシュと学生登場)パンダウサギコアラ♪



- ※ダイナミックに描く見本を見せる(指導者: 著者)

※ダイナミックさ=手で描く、道具を色々な方法で使用したりすること。

- ・自分のキャンバスに戻って描く準備をする
- ・好きな色の絵の具(3色)をもらいに行く
- ・再び演奏開始
- ・絵の具を選んできた人から描き始める(25分)～優しい曲調
- ・色を変えて2枚目描き始める(25分)～アップテンポの曲調
- ・片付け 筆洗い、バケツの水捨て、床の雑巾掛け バケツ筆、ローラーなどは一ヶ所に返却



- ・閉会式 挨拶をきちんとする

## 9. 片づけ

- ・筆・スポンジ・ローラーなどを洗う(短大絵画室)
- ・作品をキャンバスはずし、乾燥させる(翌朝まで体育館の舞台で)
- ・キャンバスを撤去(台車で移動)
- ・シートをたたむ

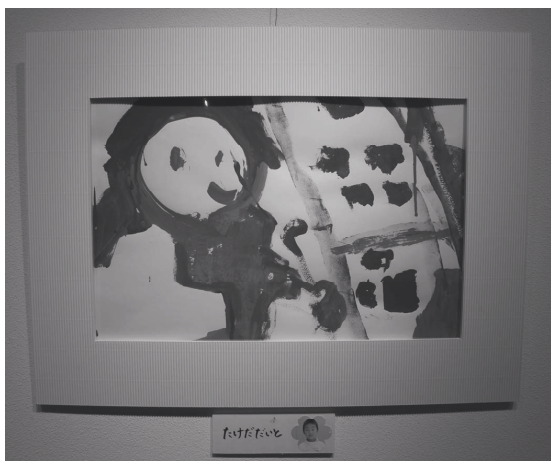
## 10. 作品展の準備

### □トリミング

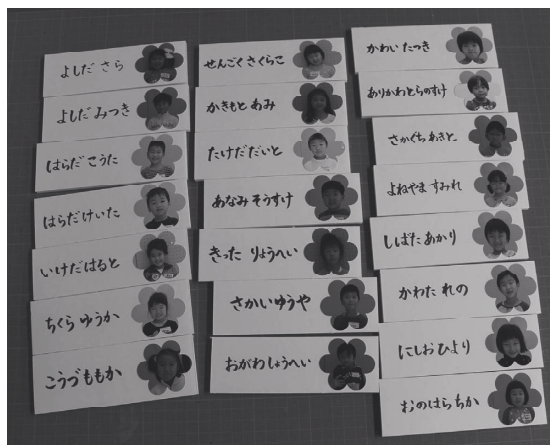
1人全紙2枚の作品を描いたが、これほど大きい作品を全員分作品展で展示できないので、四つ切サイズにトリミングする

### □額装

特製の白色の段ボールで作られた額にトリミングした作品を額装していく。



□作品展前日、会場にネームプレートと額装した作品を展示する



## 11. 演奏と鑑賞

・製作時に演奏していただいたお3人に作品展最終日に会場で演奏していただき、生演奏を聴きながら作品の鑑賞を行った。

・指導者(香月)が今回はみんなの前で演奏を聴きながら即興のライブペインティングを行う。

・子どもたちは、自分以外の人が描き始め、完成させていく過程を鑑賞する



## 12. 作品展を終えて

作品展では参加者22名中、体調を崩した2名を除き20名が来場。

最終日の閉館時間には額を壁からはずし、各人自分の作品を持ち帰った。

## 13. 保護者の感想より

<イベントに参加して見えた、お子さんの変化がありましたか?>

・筆以外の道具でキャンバスに色をつけると筆とは違う色々な表現が出来ることや、絵の具を混ぜるとどんな色になるかなど発見出来たようで、自宅

でのお絵描きも色鉛筆、クーピー、クレヨンで色々試しています。色付き粘土も混ぜたりしています。

- ・ 答えのない制作を経験し、行動がますますのびのびとしているように感じます
- ・ 今はまだ貴重な体験をさせて頂いたことを理解していませんが、これから先、この経験が子どもたちにとって、いい思い出になると思います。
- ・ 絵の具に興味津々！ 日用品でお絵かき！
- ・ 息子も、とても楽しかったみたいです。ありがとうございました
- ・ 絵を描きたいと言うようになりました。
- ・ 同じ色ばかりぬっていたのですが、色々な色使いをする様になったと思います。
- ・ いつも狭いお家でのお絵描きや物作りだけでは限界があるな、もっと爆発(?)させてあげたいなあ、と常々思っていたので、今回のイベントは非常にありがたく、本人もすごく楽しんでいたように見えました。
- ・ 大きな紙に絵を描くのは今回が初めてではなかったのですが、最初は異環境に戸惑ってはいたものの、やはり一瞬にしてマイワールドへ。没頭して楽しんでいたように感じました。親が期待していた、音楽に合わせた動きはしてくれなかったですけど(笑)、見えない何かは空気として伝わって作用していたかもしれないですね。

**<イベントに参加させて、親御さんになにか変化はありましたか?>**

- ・ もし教科として考えたとしたら、美術には数学のような答えはないので、個々の表現が全て正解の答えだと思っていたのですが、今回子どもたちの表現を見て全て大正解でその正解は無限大だと改めて思いました。そもそも、正解、不正解で考えるのがおかしいのですけど... 大人には出せない表現に感動しきりでした。
- ・ キッズアートに関心のある父兄との交流がはかれた。また今回のような企画があると嬉しいです
- ・ もっとアートに触れさせて、あげたいと思いました。生演奏なんて、聴く機会がありませんので子どもたちにとって、いい刺激になりました。子どもたちが絵を描いているのを見て、いつもとは全然違う感じの絵になっていて驚きました。
- ・ 息子はアート。娘はお絵かきのレベルでしたが、演奏を聴きながらだったからか感性豊かに楽しく

描いていました。音楽の力って、すごいと思いました。

- ・ 子どもの楽しんでいる姿を見て、色々悩んでいたことも忘れ、心にゆとりができました。
- ・ 私が思っていたよりも貴重な体験だったようで参加できて良かったです
- ・ 大きい絵の時は感じなかったのに、額に飾ると、あの絵がとても素晴らしいものに見えてきました。まさに、星の王子さまのサンテクジュベリの『大切なものは目に見えないんだよ』の言葉が、分かってきました。今までは、子どもの絵だからと軽視していた気持ちに変化が出てきました。また機会があれば是非参加したいと思います。
- ・ 買ってくるのではなくて、身の回りの物を使って工作をしようと改めて思いました。
- ・ 心の趣くままに自由に何かをさせてあげる機会や、今のこの時期だから出来る事を大切にして、素直な心を育てあげたい、と改めて感じるきっかけになりました。同時にそんな子ども達が羨ましかったです。

**<さいごに>**

人の心の中は見えない。しかも相手が乳幼児の場合、何を感じたのか、何が変わったのか断言することもできない。しかし人の感情を表情や行動からある程度、読み取ることは可能だ。今回のイベント終了後に提出していただいた保護者のアンケートには、お子さんの変化が記されている。また保護者である親御さん自身にも考え方や心の変化があったと書かれていた。アートをやる人、アートする人を見る人、アート作品を見る人に変化があったことは間違いない。今後もおうちでの子どもの変化や言動などを保護者からうかがいながら、いろいろな活動の内容や材料、方法の参考にさせていただこうと考えている。

— 2014. 3. 17 受稿、2014. 3. 18 受理 —